小学校　道徳　部会

部会長名　添田町立落合小学校　校長　長畑　理恵
実践者名　大任町立大任小学校　教諭　宮本　帆歌

１　研究主題

よりよい生き方を志向する児童を育てる道徳教育の創造
～道徳科の問題解決的な学習における発問と活動の工夫を通して～

２　主題設定の理由

（１）現代社会の要請から

（２）グローバル化が進展し，様々な文化や価値観を背景とする人々と尊重し合って生きることや，科学技術の発展や社会・経済の変化の中で，人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが重要な課題となっている。これを受けて，道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議より「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価について（報告）」（平成２８年）が提起され，「問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開することが必要」であることが示された。このことを踏まえ，小学校学習指導要領（平成２９年３月）では，道徳科の授業や，日常の指導における道徳教育を通して「多様な価値観の存在を認識しつつ，自ら感じ，考え，他者と対話し，協働しながら，よりよい方向を目指す資質･能力」を育むことが求められた。しかし，令和３年に実施された「道徳教育実施状況調査」では，これらに関して，目標を達成するための指導の具体化に特に課題を感じている割合が高いことが明らかとなった。また，福岡県教育委員会が令和４年に示した「福岡県学校教育振興プラン」では，施策（9）で「体験活動や問題解決的な学習等を取り入れ，（中略）考え，議論するような道徳の指導の充実を図る」ことが明記された。このことは，人としての生き方や社会の在り方について，よりよい方向を目指す資質・能力を育むために，福岡県教育委員会が，道徳教育実施状況調査に示された3つの指導の課題を，体験活動や問題解決的な学習を取り入れることによって克服していくことを求めていると捉えることができる。以上のことから，特別の教科道徳の目標とする児童の姿を育むために，効果の高い問題解決的な学習の在り方とはどのようなものかについて究明しようとする本研究は意義深いものであると考える。

（２）道徳教育のねらいから

平成 30 年度より「特別の教科　道徳」が全面実施となった。道徳科の目標は「より良く生きるための基盤となる道徳性を養う」とされ，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同一でわかりやすい表現になった。また，道徳的価値について自分との関わりも含め理解し，それに基づいて内省し，多角的・多面的に考え，判断する能力，道徳的心情，道徳的行為を行うための意欲や態度を育てるという趣旨が明確化された。

このように，子どもの発達段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一

人の子どもが自分の問題として捉え，「問題」に対して，「あなたならどうするか」を真正面から問い，自分自身のこととして考え，実践力をつけることが求められている。

3　主題の意味

（1）研究主題について

「よりよい生き方」とは，今まで身につけてきた道徳性を基盤とし，直面する問題に対して，適切な対応や行動をとることである。

「よりよい生き方を志向する児童を育てる道徳教育」とは，自分や他者が直面する道徳的問題を自己の道徳的行為によって，解決していくことができるようになりたいという願いをもたせる道徳科の教育活動のことである。

（2）副主題について

○　「特別な教科　道徳」の特質

道徳科が目指すものは，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。そのために，「道徳的諸価値についての理解をもとに，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考え方を深める学習を通して，道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てる」とも目標が定められている。

また，問題とは，生活上の諸問題ではなく道徳的問題のことであり，以下の４点である。

・道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題　〔理想の未実現〕
・道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題　〔理解の不十分〕
・道徳的諸価値のことは理解しているが，それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題　〔理想の実現への葛藤〕
・複数の道徳的価値の対立から生じる問題　〔価値の葛藤〕

本研究における問題解決的な学習とは，上記の道徳的問題を含む教材と，これに関連した内容項目を含む学校や日常生活の出来事の２段階で問題を捉え，解決策を考える学習のことである。

具体的には，まず，教材に含まれる道徳的問題は何かを考えさせ，理由や結果も踏まえて解決策を考えようとする課題意識を持たせる。次に交流活動を通して，児童が得たそれぞれの結論をもとに，次に，日常生活において同じ内容項目を含む場面について考えさせる。ここでも同じように道徳的問題は何かを見出させ，教材から得たことをもとに，解決策を考えさせることで，実生活の中で学びを適用することができるようにする。

発問とは，道徳的問題を見出し，解決方法を考え，自己の在り方について考えることができるようにするためのものである。具体的には，問題意識を持つことができるようにするための発問や，問題の解決方法について考えることができるようにするための発問，今後の自分の在り方について考えることができるようにするための発問のこととする。

活動とは，道徳的問題の本質を捉え，解決方法についての考えを広げ，自己の在り方についての考えを深めさせるために行うものである。具体的には，問題を自分との関わりで考えることができるようにするための立場の違いを明確にした話し合い活動や，登場人物の思いや葛藤を理解させたり，考えた解決策の良さを吟味させたりするための役割演技やロールプレイ関わり方のスキル学習などである。

以上のような問題解決的な学習における発問と活動の工夫を通して，児童の道徳的判断力や道徳的心情，道徳的実践意欲や態度を育むことを目指す。

4　研究の目標

よりよい生き方を志向する児童を育成するために,「特別の教科　道徳」の問題解決的な学習における効果的な発問や活動の要件を究明する。

5　研究仮説

教材と日常生活の2つの道徳的問題について児童が解決策を考えられるようにするために，次の２点の指導の工夫を，繰り返し授業で行えば，児童のよりよい生き方を志向する意識が高まるであろう。

視点１：道徳的問題を見出し，解決方法を考え，自己の在り方について考えることができるようにする発問の工夫 視点２：道徳的問題の本質を捉え，解決方法についての考えを広げ，自己の在り方についての考えを深める活動の工

6　研究の計画（授業の計画）

（１）　主題名　だめな　ことは　だめだよ

【A－（１）　善悪の判断，自立，自由と責任】

教材名　「にんじんばたけで」（出典　日本文教出版）

（２）　主題設定の理由

○　本学級の児童は，日頃から良いことを進んで行おうする意欲が高い。一方で，身回りでルールを守らず，行動している児童がいると，善悪の判断ができず，自分も一緒になってしてしまうということが多々ある。これは，誰かがしているから自分もしていいのではないかという気持ちの弱さがあるからではないかと考える。そこで，良いことを進んで行う意欲がありながらも，周りの状況によっては正しくないことをしてしまうことが多いこの時期に，誰かがしているからといって自分も一緒になってしてしまっても，すがすがしさを感じられないことに気付かせ，正しいことを自信もって行おうとする態度を育てたい。

○　「善悪の判断，自律，自由と責任」とは，物事の善悪の判断について的確に判断し，自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動すること，自由を大切にする

とともに，それに伴う自律性や責任を自覚することをねらいとしている。この時期の児童は，何事にも興味，関心を示し意欲的に行動することが多い反面，まだ集団生活に十分に慣れていないために，引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくはない。このような時期に，積極的に行うべきよいことと，人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養っていきたい。また，よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして，小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育んでいきたい。

○　本教材は，３匹のうさぎが，美味しそうなにんじんを見つけ，そのにんじんを食べるか食べないか葛藤する話である。まず，はたけになっているにんじんを見つけ，食べたいという気持ちがある中で，「はたけに入るな」という看板を見て，はたけに入ることをやめようとする。しかし，はたけに落ちているにんじんのたべかすを見て，「みんなも食べているから，自分たちも食べてよいのではないか」という気持ちになる。このように葛藤しつつも，「みんながやっているから自分もしてよい」と考えることの間違いについて理解し，進んで正しいことをしようとする思いを深めるという内容である。「みんながしているから自分もしてよい」という気持ちで，だめなことをしていまいそうになったり，ときには，それをしてしまったりする状況は，本学級の子どもたちの実態と重なる。このことから，進んで正しいことをすることのよさに気付くことのできる本教材は大変価値がある。

○　本主題の指導にあたっては，してはいけないことを「みんながやっているから自分もしてよい」と考えることの間違いに気づき，よいと思うことを進んで行おうとすることの大切さについて気付かせたい。まず，導入段階においては，教材「にんじんばたけで」の中盤までを読み，うさぎがにんじんを「食べる」か「食べないか」葛藤する気持ちに気付かせ，どちらの方が良い気持ちで生活できるのか問題意識を持たせる。次に，展開前段においては，葛藤するうさぎの気持ちを考え，「みんながしているから，自分たちもよい」という気持ちに共感させるとともに，話の続きを読んだ後，正しいことをしたときのすがすがしい気持ちに気付かせる。展開後段においては，自分たちの学校生活や日常生活を振り返らせ，同じような場面がないか想起させ，課題意識をもたせる。終末段階においては，正しいと思ったことを進んで行うことでよい気持ちで生活ができていることに気付かせたい。

（３）　本時のねらい

うさぎがにんじんを「食べる」か「食べないか」葛藤する気持ちを話し合う活動を通して，してはいけないことを「みんながしているから自分もしてよい」と考えることの間違いに気付き，よいと思うことを進んで行おうとする態度を育てる。

（４）　授業づくりの視点

◇　視点１「道徳的問題を見出し，解決方法を考え，自己の在り方について考えることができるようにする発問の工夫」

・導入段階において，課題意識をもつような教材の提示（区切って提示）をする。

・中心場面の葛藤について考える際，意思表示の仕方（赤白帽子の活用）や役割演

技をする。

◇　視点２　「道徳的問題の本質を捉え，解決方法についての考えを広げ，自己の在り方についての考えを深める活動の工夫」

・一人一人が日常生活を見つめ，課題解決に向かうような発問や生活場面の提示をする。

（５）　準備　道徳ノート，場面絵，赤白ぼうし，ワークシート

（６）　展開

段階	学習活動と主な発問	指導上の留意点 ◇評価規準（方法）
導入	１　教材「にんじんばたけで」を基に，本時の課題を捉える。 ・にんじんを見つけたときは，うれしい気持ちでいっぱいだよ。 ・みんなでにんじんを食べるか，食べないかまよっているよ。どうしたら，いいのかな。 めあて　まよったときに　たいせつな　こころは　なにかな？	○　問題意識をもたせるために，教材の途中（にんじんの食べかすを見つける）までを提示する。
展開前段	２　３匹のうさぎの気持ちの変容について話し合う。 （１）　にんじんを「食べる」か「食べない」か葛藤するうさぎの気持ちについて話し合う。 うさぎさんたちは、にんじんを「食べる」と思う気持ちと「食べない」と思う気持ちのどちらが大きいかな。 【にんじんを食べる】 ・　みんなも食べているから，いいかな。 ・　見つからなかったら，おこられない。 【にんじんを食べない】 ・　入ってはいけない場所だから，入らない。 ・　人が育てたものを，勝手に取ってはいけない。 ・　みんなが食べていても，だめなものはだめ。	○　うさぎの気持ちを考えることができるように，ワークシートに「食べる」「食べない」のどちらの気持ちなのかを記入させる。 ○　うさぎの葛藤する気持ちをつかませるために，「食べる」「食べない」という気持ちのどちらなのか，赤白ぼうしを用いて，意思表示させる。

展開後段	（２）　迷っているうさぎたちは，どうしたらよいのかよりよい解決策を考える。 【うさ】　T：「だれかがたべているよ。」 【ゆき】　T：「そうだね。みんなも食べているのだから、ぼくたちだってたべてもいいよね。」 【ぴょん】C：「そうかなあ。…」 ・だめだと思うよ。だって，作った人が悲しんでしまうから。 ・ばれなくても，気持ちがもやもやするよ。 ・だれかが食べていても，だめなことはだめだよ （３）　話の続きを読み，にんじんを食べなかったときのうさぎの気持ちについて話し合う。 にんじんを食べなかったのに、「にっこり、げんきにのはらをはしっていった」のは、どうしてかな。 ・正しい（良い）ことをして，嬉しい気持ちになった。 ・もし，にんじんを食べていたら，その後もやもやする。 ・だめなことをしないと決めて，それができたらすっきりした気持ちで過ごせる。 ３　自分たちの学校生活や日常生活を振り返る。 「周りの人がしているから、自分も少しぐらいいいかな」と思ったことはありますか。 →次に同じようなことがあった時、どうしたらうさぎさんたちみたいににっこりになるのかな？ ・廊下を走っているよ。 →走ると危ないから，歩いて行こう。 ・授業中なのに，さわいでいるよ。 →周りの人がいやな気持ちになるし，自分も困るから，静かにしよう。 ・ごみをポイ捨てしているよ。	○　うさぎたちの気持ちをより表現しやすくするために，役割演技を行う。（教師…うさ・ゆき役，児童…ぴょん役） ○　正しいことを進んで行ったときのほうが快感情になることに気付かせるために，にんじんを食べなかったときの気持ちを記入させる ○　本時内容（周りの人がしているから，少しぐらいはいいかな）と同じような道徳的問題がないかを確かめるために，具体的な状況をパワーポイントで提示し，想起させる。
終	→きちんと決まった場所に捨てよう。	○　ねらいとする道徳的

末	4　本時の振り返りをする。 ・これから，だめなことをだれかがしていても，自分はしないようにする。 ・正しいことをしたら心がすっきりすることが分かった。 5　教師の説話を聞く。	価値の自覚を図ることができるように，日頃の児童の写真（正しいことを進んでしている姿）を提示する。 ○　本時の価値の高まりを実感できるように，説話を行う。

（７）　内容項目の分析

「善悪の判断，自律，自由と責任」　A－（１）

低学年　よいここと悪いこととの区別をし，よいと思うことを進んで行うこと。

中学年　正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。

高学年　自由を大切にし，自律的に判断し，責任のある行動をすること。

	キーワード	価値
低学年	よいことと悪いことの区別 よいと思うことを進んで行う	積極的に行うべきよいことと，人間としてしてはならないことを正しく区別しようとする。
中学年	正しいと判断 自信をもって行う	正しいと判断したことは自信をもって行い，正しくないと判断したことは行わないようにする。
高学年	自由を大切に 自律的に判断 責任のある行動をする	自由と自分勝手との違いや，自由だからこそできることやそのよさを考え，行動しようとする。

（８）　教材分析

条件・状況 ※主人公が直面している道徳的場面	・のはらににんじんばたけ。「はたけにはいるな」の看板。 ・はたけのそばには，だれかのにんじんの食べかすが落ちている。
人間的な弱さ・脆さ	・みんなが食べているなら，自分も食べていいのではないかと思う。
回転軸（きっかけ） ※主人公が変革するきっかけ	・３匹のうさぎは顔を見合わせ，本当に食べて良いのか考える。

価値への目覚め	・「やっぱり食べちゃいけない」「だれかが一生けんめいそだてている」と話し合い，三匹はにっこりとして「食べない」判断をする。
価値の納得	・おいしそうなにんじんは食べなかったけど，三匹のうさぎは，元気に（良い気持ちで）野原を走っていった。

（９）　板書計画

７　指導の実際

（１）導入について

本時の導入では，「にんじんばたけで」に出てくる３羽のうさぎを紹介し，「うさぎは，にんじんがすきであること」を共通認識として捉えた。その上で，お話のアニメーションを①にんじんばたけを見つけたとき②看板を見つけたとき③たべかすを見つけたとき④食べるかどうか悩んでいるときの４つに区切り，その時のうさぎたちの気持ちを考えながら視聴した。視聴後には，食べかすを見つけたうさぎたちが，「誰かが食べているから，自分たちもいいよね…」と悩む気持ちに共感させ，そのように迷ったときはどんな心を大切にしたら良いのか問題意識を持たせることができた。

（２）展開前段について

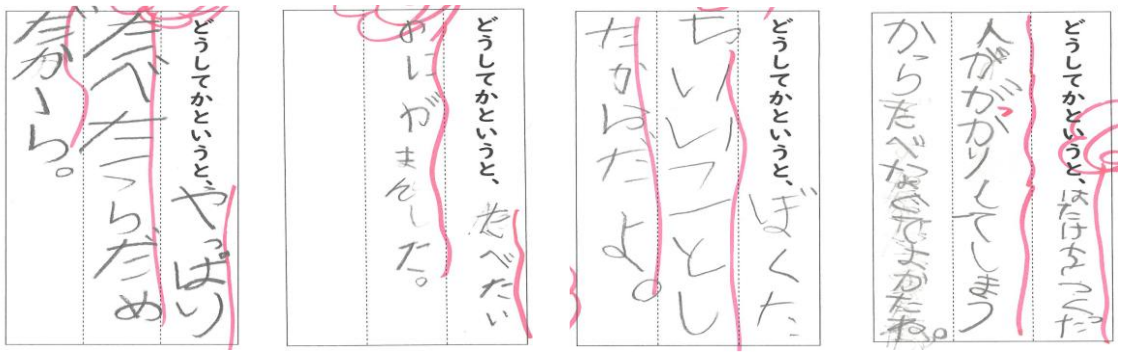
まず，うさぎたちが，にんじんを食べるか，食べないか児童に問い，ワークシートに書かせ，その後，赤白帽子を使って，どちらなのか意思表示させた。「食べる」を選んだ児童は「白」，「食べない」を選んだ児童は「赤」にさせ，どうしてそれを選んだのか理由を聞き，板書に整理した。「食べる」理由，「食べない」理由を整理することで，うさぎたちがどんな理由で迷ってしまったのかを捉えることができた。

次に，うさぎたちが悩んでいる場面（絵と台詞）をパワーポイントで提示し，「誰かがしているから自分たちもしていいのか」という視点で役割演技を行った。「ばれなかったら，いいんじゃない?」「みんなも食べているよ?」など教師が揺さぶることによって，食べてはいけない理由を児童の言葉で引き出すことができた。

最後に，アニメーションの続き（食べるか迷っているところから）を視聴し，うさぎたちはにんじんを食べなかったけど，どうしてにっこり元気に走っていったのか考えさせ，ワークシートに記入させた。「誰かがしているから自分たちもしていいのか」と迷ったと

き，自分で正しい（良い）と思うことを判断し，それができたときは，気持ちがすっきりしたり嬉しくなったりするということに気付くことができた。また，正しい判断をしたことで自分が快感情になるだけでなく，周りの人のことも考えることにつながることを押さえることができた。

【児童のワークシート】



（３）展開後段について

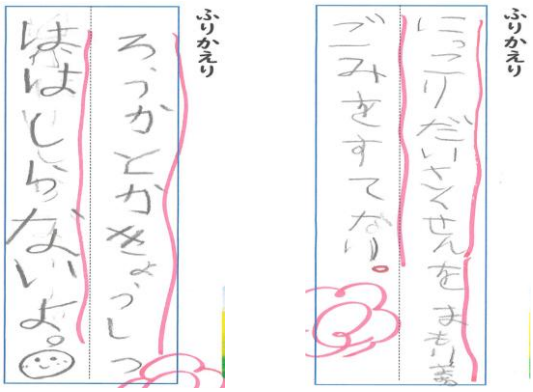
「これから，同じようなこと（誰かがしているから自分もしていいかな？と迷う状況）があったとき，うさぎさんたちみたいににっこりになるにはどうしたらいいかみんなも考えてみよう！」と問いかけた。「ろうかを走っていいのかな？」「授業中におしゃべりしていいのかな？」「ゴミをポイ捨てしていいのかな？」という具体的な場面をパワーポイントで提示することで，児童は自ら正しいと思うことを判断し，どうしたら「にっこり」になるのか「にっこり大作戦」を考えることができた。

（４）終末段階について

展開後段にて，「にっこり大作戦」を考えたことで，終末段階の振り返りでは，進んで良いことをしようとする意欲が見られた。

【「にっこり大作戦」場面の提示】

【児童の振り返り】



８　成果と今後の課題

（１）成果

○教材から入ることで，全体で共通の問題意識を持つことができた。また，教材を区切りながら提示することで，状況を整理して，本時で考えることを明確にできた。

○意思表示の際，赤白帽子を使うことで，児童が自身の立場をはっきりさせることができた。

○展開後段で，自分自身の生活場面に落とし込むためにパワーポイントで提示することで，自分事として課題解決をしようとする姿が見られた。

（２）今後の課題

●児童が本時の道徳的価値を自覚できたかを評価するために，振り返りの仕方や書き始めを工夫する。（○×で答えられるようなもの，「にっこりになるには…」という書き始めなど）

●本題材で行った低学年における問題解決的な学習の発問や活動の工夫が、他の教材でも有効であるかどうかを検証し、効果的な問題解決的な学習についての理解を深める。

◎　参考文献

・小学校学習指導要領解説　道徳編
・問題解決的な学習で創る道徳授業　明治図書
・道徳教育実施状況調査報告書　文部科学省